

守山まるごと活性化計画 学区別会議実施記録 第5回

1. 実施概要

学区・回	小津学区 第5回
日時	2013年11月11日(月) 19:30~21:30
会場	守山会館
参加者	住民18人(金森1人、三宅2人、大林2人、欲賀2人、森川原1人、山賀2人、杉江2人、三宅稲葉3人、金森山柿3人) 守山市(木村、川上、中島(史)、足立) 地域未来研究所(田淵、小野田、貞松、倉嶋)
会場設営	前半は自由席。後半は3テーブルを配置、重点プロジェクト毎に希望するテーブルに着席
実施経過	<p>1. 挨拶</p> <p>①開会挨拶(木村課長)</p> <p>②開会挨拶(三品学区長)</p> <p>第5回目となり、最後の開催となった。これまで活発に議論頂いた内容を整理していくことになる。小津学区には、自然・文化財・地域の環がある。これらを活かすべく、検討をお願いしたい。</p> <p>2. 説明と重点プロジェクトの投票およびまちづくりテーマ案の選択</p> <p>①本日のプログラム内容(田淵)</p> <p>②第4回検討結果の説明(田淵)</p> <p>③プロジェクトの絞り込みとまちづくりテーマ案の選択(投票)</p> <p>■選択された「重点プロジェクト」</p> <p>→ ①農からはじまるお付き合いプロジェクト</p> <p>→ ②新守山川触れ合い環境整備プロジェクト</p> <p>→ ③湧き水に育まれた小津の文化発見プロジェクト</p> <p>■選択された「まちづくりのテーマ」</p> <p>→ 人と水と歴史がつながる^{きな}生成りのまち</p> <p>3. 重点プロジェクトの掘り下げと実現化方策についての意見交換(テーブル別ワーク)</p> <p>【主な意見】</p> <p>■農からはじまるお付き合いプロジェクトなど</p> <p>・小津に来れば農業(米、野菜)にふれられるという環境ができればよい。</p> <p>・農家と市民、高齢者と若者、といった交流が大事。</p>

■新守山川ふれあい環境整備プロジェクトなど

- ・「人と琵琶湖がつながり親しむ環境づくりプロジェクト」、「ホテルが育ち光るまちプロジェクト」と一緒に取組んではどうか。
- ・集落排水施設を山賀内湖とともに活用。環境学習の場として、魚釣りやカヌー教室を実施してはどうか。
- ・芦刈園やビオトープを活用し、四季の花で溢れる散策路・遊歩道としてはどうか。

■湧き水に育まれた小津の文化発見プロジェクトなど

- ・「歴史を語るたからもの継承プロジェクト」と一緒に取組んではどうか。
- ・守山一周歴史ウォーク、「湖の子」の小津版ができればよい
- ・コンセプトは、”体”で学ぶ、現地で学ぶこと。
- ・大人になったとき、小津をふと思い出してもらえるように、地域への愛着・思い出を育む。

4. 結果の発表・共有

- ・テーブル毎に参加者の代表が学区の重点プロジェクトの取組や役割分担について協議内容を発表し、共有化した。

5. その他

- ・学区別会議は今回で一旦終了。12月～1月頃に全体会議・活性化プラン（素案）の完成。2月頃に活性化プラン（素案）を地域で説明。3月に活性化プランの完成という予定で進めることとなった。

第5回小津学区会議の様子



2. 第5回学区会議の意見まとめ

小津学区のまちづくりのテーマおよび重点プロジェクトの投票結果、検討内容をまとめた。

<小津学区のまちづくりのテーマの投票結果>

- | | |
|--------------------------|-----|
| ① 生成りでつくるふれあいのまち 小津 | 5票 |
| ② 蓮如上人の教えが息づくやさしさの水辺 | 0票 |
| ③ 小津は人と水と歴史がつながるまちをめざします | 13票 |
| ④ 気づけばみんな小津っ子のまち | 0票 |

新規案 人と水と歴史がつながる生(き)成(な)りのまち

これを採用

「③小津は人と水と歴史がつながるまちをめざします」が最も多くの票を集めたが、①にある“そのままの姿で”という意味の「生成り」という言葉が、小津学区の地域性をよく表現しているという意見があったことから、この言葉を③に取り込み、新規案とした。

<重点プロジェクトの投票結果>

プロジェクト名	投票結果（票数）			採否
	必要性	興味	合計	
① 農からはじまるお付き合いプロジェクト	5	17	22	○
② 新守山川触れ合い環境整備プロジェクト	12	7	19	○
③ 人と琵琶湖がつながり親しむ環境づくりプロジェクト	13	2	15	○*
④ 湧き水に育まれた小津の文化発見プロジェクト	4	9	13	○
⑤ 歴史を語るたからもの継承プロジェクト	8	5	13	○*
⑥ ホタルが育ち光るまちプロジェクト	4	8	12	○*
⑦ 公園で健康づくりプロジェクト	5	2	7	×
⑧ 季節の花が溢れる色彩の庭プロジェクト	3	4	7	×
⑨ 長刀祭へいらっしやいプロジェクト	5	2	7	×
⑩ 比叡・比良の眺望活用プロジェクト	2	3	5	×
⑪ 若者の定住促進プロジェクト	0	2	2	×
⑫ 憩いの自治会館プロジェクト	1	0	1	×

これらを重点プロジェクト化

注 投票は、各人「地域のまちづくりに必要と思われるもの」3票、「自分自身に興味があり取り組んでみたいもの」3票の合計6票を持ち、各プロジェクトに投票してもらった。（一つのプロジェクトに複数投票可）

※ これらのプロジェクトは、上位の重点プロジェクトと一緒に取組む形で採用

2.1 小津学区のまちづくりプロジェクトに対する個別意見・実施に向けての役割分担など

プロジェクト名	取組	意見
①農からはじまるお付き合いプロジェクト	<p>■取組 1 田畑を活用した農業体験イベント</p> <p>■取組 2 野菜販売所の開設と、複数の販売所を結ぶ案内図の作成</p> <p>■取組 3 貸し農園の開設と、コミュニティスペースの併設</p> <p>■取組 4 農業の担い手の募集と、初期支援</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目標:小津に来れば農業(米、野菜)にふれられる ●プロジェクト(就農)・ある程度大きさの土地や道具・施設、水が必要 ●交流(農家⇄市民の方、高齢者⇄若者)が大事 <p>【役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元でできること <ul style="list-style-type: none"> ・個人レベルの直売所の情報を提供→買ってくれる人がいれば張り合いが出る ・個人レベルでの貸農地の把握 ●行政等にサポートを求めること <ul style="list-style-type: none"> ・貸農園の情報の集約と発信 ・遊休地や、どこで指導が受けられるかの情報等の提供と発信 ・駐車場や道路の整備 ・土地の貸し借りにおける制度 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が必要(作る指導(農家の方)や食べ方の指導) ・素人が入っていける仕組みが必要(指導が先)

プロジェクト名	取組	意見
②新守山川触れ合い環境整備プロジェクト	<p>■取組1 イベントや活動の実施</p> <p>■取組2 桜並木や自転車道の整備</p> <p>■取組3 河道の整備</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●桜並木を拡充整備し、遊歩道・自転車道として整備 ●集落排水施設を山賀内湖とともに活用。環境学習の場として、魚釣りやカヌー教室を実施 <p>【役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元でできること <ul style="list-style-type: none"> ・桜の植樹 ・四季の花を植える
②(人と琵琶湖がつながり親しむ環境づくりプロジェクト)	<p>■取組1 四季を通して憩える環境づくり</p> <p>■取組2 サイクルロードマップの作成</p> <p>■取組3 誘客促進に向けた取組み</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●芦刈園やビオトープを活用し、四季の花で溢れる散策路・遊歩道とする ●湖岸～運動公園までを検討 ●グラウンドゴルフコースを川沿いに何カ所がつくってはどうか
②(ホタルが育ち光るまちプロジェクト)	<p>■取組1 ホタル保護区</p> <p>■取組2 ホタルの育成・保護を通じたホタルと触れ合う環境づくり</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新守山川～琵琶湖に自然発生のホタルがいる ●「ほたる観賞のタベ」、「子ども会でホタル観賞」などはどうか <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水の確保

プロジェクト名	取組	意見
③湧き水に育まれた小津の文化発見プロジェクト	<p>■取組 1 小津の地名とその由来の再発見</p> <p>■取組 2 水資源と歴史資源との関係性を紐解く</p>	<p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目標：守山一周歴史ウォーク、「湖の子」の小津版ができれば ●コンセプト：“体”で学ぶ、現地で学ぶ 大人になったとき、小津をふと思い出してもらえるように 地域への愛着・思い出を育む ●四季の花や祭など一緒に楽しめるように ●巡って楽しい仕掛けが大事 ●実はwebでも地域の魅力がわかる ●琵琶湖の各所の「津」の由来は何か。戦国時代などはどうか。大人もよく知らない ●まずは小津住民に向けて取組む。そして広域へPR。
③(歴史を語るたからもの継承プロジェクト)	<p>■取組 1 みんなで魅力の再発見・再整理</p> <p>■取組 2 ウォークルートの造成</p> <p>■取組 3 若い世代も楽しめるイベントの実施</p>	<p>【役割分担】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地元でできること <ul style="list-style-type: none"> ・取組のキーマンを探す・キーマンになる ・大人と子どもが魅力を探す散策の企画 ・歴史の勉強会（他の学区の歴史も含めた市全体の歴史を学ぶ・整理する） ・いくつかのルートを検討 ・ウォークルートマップの作成 ●行政等にサポートを求めること <ul style="list-style-type: none"> ・学校などとの連携 ・歩道の整備 ・webでPRマップなどのせる <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全面が課題 ・周回ルートは小津のみでは厳しい